

平成 21 年度第 2 回札幌文化芸術円卓会議の発言要旨

平成 21 年 10 月 20 日 市民文化課

前回の会議で提案のあった「札幌市の施策体系と文化施策の関連について」及び「札幌市の文化芸術に関するデータ」について、事務局から委員に対し説明を行い、その後意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。また、説明資料は別添のとおりに。

【円卓会議の位置付け】

- この会議では、我々はどのような立ち位置で議論をしていけばいいのか。(大平)
- 円卓会議の位置付けについては、委員の意見を聞きながら文化行政の方向性を考えたいということで設置している会議である。次期 5 年計画の策定が平成 23 年にある。そこに向けて文化政策をどのように進めて行ったらいいのか、その方向性を一緒に考えたいと思い設置している。(事務局)
- この会議では、文化部以外でやっている文化的事業についても議論してよいのか。(中津)
- 当然議論の対象になる。例えば、経済局のデジタル創造プラザや国際短編映画祭、環境局のモエレ沼公園など。(事務局)
- 創造都市さっぽろの検討が別途進められているが、この会議はそれに振り回されない方が気がする。札幌市全体の文化行政というよりは、文化部にとって、円卓会議委員が良い意見を提案していく立場の方がよいと思う。円卓会議は文化部のブレーンのような存在が良いのではないか。(早川)
- この会議は、そういう位置付けで進めましょう。(佐々木)

【データの蓄積について】

- 札幌でどのようなイベントが開催されているのかがわかるような冊子が必要。200 万人都市なら、絶えずそういうものを発行していき、それを蓄積す

ればデータベースにもなるのではないか。札幌に来た人はそれを見れば、どこで何をやっているかすぐに分かる。観光と文化芸術はセットである。(大平)

- 観光文化情報ステーションのようなものをデータベース化して利用することも可能ではないか。(中島)
- 観光文化情報ステーションへの掲載手続きをもう少し簡単にした方が良い。登録している人じゃないと掲載してもらえない。観光文化情報ステーションに力を入れた方が効果的なのではないか。(阿部)
- ウィークリープレスを地下鉄の各駅に置けるようにすべきである。(斎藤)
- 特に年表のデータは大事。(蔵)
- 文化部が責任を持って文化芸術活動のデータの蓄積をするべきである。(全委員)
- この会議で「データの今後の在り方」といったような意見を出していくことが我々の役目。(佐々木)
- 委員の意見は受け取った。検討したい。(事務局)